

授業科目	在宅看護概論	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	在宅看護の対象となる人々が生活する地域では、高度医療技術の進歩に伴い、医療依存度が高い在宅療養者が増加し、また、在宅で死をむかえたいと望む人々も増えてきている。その現状をふまえ、在宅看護概論では、人々を取り巻く社会の有り様と生活する場である在宅及び対象となる人々とその家族を理解し、疾病や障害を持ちながらも、住み慣れた環境での生活を維持・向上を支援するために必要となる在宅看護の特性や看護の継続性について学ぶ。						
学習目標	1. 在宅看護の目的と在宅看護における看護師の役割、多職種との連携について理解する。 2. 在宅看護の対象者の特徴とその家族について理解する。 3. 在宅看護に関する諸制度(介護保険制度・訪問看護制度)について理解する。						
授業の概要	講義や事例から、グループワークを行い、いろいろな考え方を培ったり、深めていく。						
授業内容(講義ことの内容)	1・2 在宅看護とは 1)在宅看護のめざすもの 2)在宅看護における看護師の役割と機能  3 継続看護について 1)退院支援と退院調整 2)関係職種との連携 3)クリニカルパスの利用  4・5 在宅看護の対象者 1)疾患・障害からみた対象者の特徴 2)在宅療養状態別にみた対象者の特徴 3)対象者の権利 4)家族看護における理論とアセスメント法  6・7 在宅療養を支える制度 1)在宅看護のめざすもの成立の条件 2)介護保険制度 3)地域包括ケアシステム 4)訪問看護制度  終了試験					担当者(時間)	
						専任教員(13)  看護師(2)	
評価	筆記試験 出席、課題レポート						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 国民衛生の動向						
参考図書	新版 在宅看護論 木下由美子編著 (医歯薬出版) 場面でまなぶ 在宅看護論 (メディカ出版) 医療福祉総合ガイドブック (医学書院) 雑誌 訪問看護と介護 (医学書院)						
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)  実習指導や主張などで不在の場合がありますが、それ以外は質問・相談随時受け付けます						
備考							

授業科目	在宅看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 2学期
設定理由	在宅療養者の日常生活の支援は、療養者と家族が生活者という視点で捉え、主体は療養者にあることを理解することが重要である。在宅看護技術では、家庭での生活・価値観を尊重した看護を提供するための人間関係構築の技術、基本技術、日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術が安全で確実に実施できるよう、知識・技術を習得する。						
学習目標	1. 在宅看護過程の展開や他職種との連携など、在宅看護を展開していく際のポイントを理解する。 2. 在宅で求められる看護技術、医療技術とそれに伴う看護を理解する。						
授業の概要	事例展開とグループによるデモンストレーションの発表を通して学ぶ。						
授業内容（講義）の内容（	1～4 在宅看護の展開 1)在宅看護過程展開のポイント 2)在宅看護過程の展開方法						担当者(時間)
	5・6 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション 1)家庭訪問の意義 2)訪問時のマナー 3)初回面接技術 4)信頼関係の形成						専任教員 (30)
	7～12 在宅看護技術 1)食生活・嚥下に関する在宅看護技術 2)排泄に関する在宅看護技術 3)移動・移乗に関する在宅看護技術 4)清潔に関する在宅看護技術 5)指導技術:吸引法 6)緊急時・急変時の対応:連携のとり方 7)在宅医療技術 ・尿道留置カテーテル・経管栄養・在宅中心静脈栄養法 (HPN)						
評価	筆記試験 レポート提出状況 出席						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 写真でわかる訪問看護 (インターメディカ)						
参考図書	新版 在宅看護論 木下由美子編著 (医歯薬出版) 場面でまなぶ 在宅看護論 (メディカ出版) よくわかる 在宅看護 角田直枝編集 (学研)						
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 発表がスムーズにできるように事前の資料作成と事前の技術練習のために、連絡相談はこまめにお願ひします。 実習期間と重なるのでスケジュール確認をお願ひします。						
備考							

授業科目	在宅看護実践方法論	単位	2	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 2学期
設定理由	在宅療養場面における特徴的な事例を通して、人間関係展開のプロセス、問題解決のプロセスを学ぶ。						
学習目標	障害を持ちながら生活するための在宅療養者の看護過程の展開を学ぶ。						
授業の概要	各担当講師による講義						
授業内容（講義ごとの内容）	在宅看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>在宅看護介入時期別の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)退院前(在宅療養準備期)</li> <li>2)在宅療養移行期</li> <li>3)在宅療養安定期</li> <li>4)急性増悪期</li> <li>5)終末(看取り)期</li> </ol> </li> <li>脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)療養者についての情報</li> <li>2)リハビリ病院の退院計画</li> <li>3)在宅療養の開始</li> </ol> </li> <li>認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開</li> <li>COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開（HOT導入含む）</li> <li>独居の療養者に対する在宅看護の事例展開</li> <li>終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開</li> </ol>						担当者(時間)
							非常勤講師(9)
							看護師(10)
		看護師(11)					
		教員の連携と協力体制					
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)						
参考図書							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 2年生の学年担当に連絡してください。						
備考							

授業科目	在宅看護論実習	単位	2	時間	90	履修時期	H31年度 3年次 1学期～2学期
設定理由	看護の対象は疾病の有無に関わらず地域で生活している人々である。病院での生活は一時的なものであるため、疾病あるいは障害を持ちながら地域(在宅)で生活することの意義を看護実践を通して理解する。						
学習目標	1. 在宅の対象の特性を理解する。 2. 地域で生活する人及びその家族の生活を支える看護を理解する。 3. 地域包括ケアシステムについての理解を深め、保健医療福祉チームの中での看護の役割を考える。 4. 生活の場を拠点として行う看護のための基本姿勢・態度を身につける。						
授業内容(講義ことの内容)	地域で生活している対象への援助の実際および見学 1. 地域包括支援センター (30時間:4日間) 地域包括支援センターの活動を通して、地域包括ケアシステムの意義と実際を学ぶ。 2. 訪問看護ステーション (38時間:5日間 1日学内日) 在宅療養者とその家族への援助を通して、訪問看護における看護の役割と特徴を理解する。 3. 保健センター (22時間:3日間) 保健所・保健センターなどにおける地域保健活動の実際を理解する。						担当者(時間)
							専任教員
							教員の連携と協力体制
評価	地域包括ケアシステムの理解状況 在宅看護の考え方 受け持ち療養者に対する看護実践 実習の取り組み姿勢						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)						
参考図書	各看護学で用いるすべての参考図書						
備考	地域に出かける実習です。 様々な発達段階の人々と一般常識に基づいた関わりができるように努力して下さい。 実習期間中は、曜日によって学内日・自己学習日がありますので、日程を確認してください。						

授業科目	看護管理	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 3年次 1学期
設定理由	看護管理は、組織を確立し、運営を適切にしていく管理技法であり、看護の対象である人間が基盤にある。管理的立場にないものにとっても、看護管理の基礎を理解することは、看護の効果をあげるのに役立つ。保健医療システムとその中での看護管理の位置づけ、看護管理の基礎となる理論や基礎知識、看護制度や法的問題、医療と看護管理の実際について学ぶ。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理の目的と機能について理解する。</li> <li>・組織の一員として、マネジメントとトップマネジメントについて理解する。</li> <li>・看護管理のプロセスを学び、看護ケアの提供者として必要な看護の提供システムを理解する。</li> <li>・人材育成の制度や実際を学び、自己能力を向上させる必要性を理解する。</li> </ul>						
授業の概要							
授業内容（講義ごとの内容）	1. 看護とマネジメント 1) 看護管理学とは 2) マネジメントとは 3) 看護におけるマネジメント  2. 看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 4) チーム医療 5) 看護業務の実践  3. 看護サービスのマネジメント 1) 看護サービスのマネジメント 2) 組織目的達成のマネジメント 3) 看護サービス提供のしくみづくり 4) 人材マネジメント 5) 施設・設備環境のマネジメント 6) 物品のマネジメント 7) 情報のマネジメント 8) 組織におけるリスクマネジメント 9) サービスの評価  4. 看護を取り巻く諸制度 1) 看護の定義 2) 看護職 3) 看護実践の領域と場 4) 医療制度  5. マネジメントに必要な知識と技術 1) 組織とマネジメント 2) リーダーシップとマネジメント 3) 組織の調整 4) 組織と個人  6. 看護管理の今後の課題						担当者（時間）
							医師(2)  看護部長(6)  専任教員(7)
評価	筆記試験						教員の連携と協力体制
テキスト	看護管理（医学書院）						
参考図書							
オフィス	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など）						
備考							

授業科目	医療安全	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 3年次 1学期
設定理由	医療事故というかたちで患者に実害を及ぼすことのないような仕組みを学び、医療事故の防止対策と、医療施設全体の組織的な自己防止 対策の二つの対策について学ぶ。医療事故の発生を未然に防ぎ、患者が安心して安全な医療を受けられる環境について学ぶ。						
学習目標	医療の質と安全を確保する為に、具体的に医療現場で行われる必要な業務を把握し、医療事故を未然に防ぐ知識と心構えを習得する						
授業の概要							
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 事故防止の考え方 2. 診療の補助の事故防止 1) 患者に投与する業務における事故防止 2) 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止 3. 療養上の世話の事故防止 4. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 5. 医療安全とコミュニケーション 6. 組織的な安全管理体制への取り組みとわが国の医療安全対策の展望						担当者(時間)
							看護師(15)
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 (医学書院)						
参考図書							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考							

授業科目	災害看護	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 3年次 2学期	
設定理由	災害看護教育の柱は「命と生活を守る」です。物資も人手もない中で、被災者と向き合って生活を整え、自立を促すのが目的となる。救命救急の急性期看護は24～48時間以内の対応や、災害看護は食事や排泄、睡眠など生活の基本を整えながら長期的な支援の仕方を学び、さらにトリアージ(治療優先度の決定)や心のケアなど、通常の看護知識を応用することを学び、災害時に看護が果たす役割と災害時看護支援活動について学ぶ。							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が人々の健康に及ぼす影響と障害について学習する</li> <li>・災害時に看護が果たす役割、災害時看護支援活動について学習する</li> <li>・組織的、制度的災害対策について学習する</li> <li>・災害の種類、特殊性と発生からの時期に応じた看護援助の実際を知る</li> </ul>							
授業の概要	災害時における基本的な看護を学び、訓練の演習を通して必要な援助を習得する							
授業内容(講義ごとの内容)	1. 災害看護学・国際看護学を学ぶにあたって 2. 災害看護学 3. 地震災害看護の展開 4. 国際看護学 5. 災害看護学・国際看護学における倫理・教育・研究	担当者(時間)					看護師 (15)	
		教員の連携と協力体制						
評価	筆記試験							
テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 (医学書院)							
参考図書								
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)							
備考								

授業科目	統合看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 3年次 1学期～2学期
設定理由	卒業後に向けて自らの看護観を養うと同時に医療現場では対象の状態に合わせた臨機応変な対応、高度な技術が求められることより、より医療現場に即した技術の習得を目指す。そのため、自らの体験を通して身につけてきた看護の知識・技術・態度を統合、活用する力を養い、看護技術を客観的に評価し、更に良いものにするための発想力、思考力を養う。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験と知識を統合し言語化、行動化しながら、看護技術の根拠、安全性・安楽性を追究し、創意工夫する能力を養う。</li> <li>・これまでに得てきた知識を駆使し、医療現場で必要となる知識・技術・態度を身につける。</li> </ul>						
授業の概要							
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 看護原理 2. 看護技術の根拠の追求 リフレクション 3. 統合看護技術 1)人工呼吸器装着患者の看護 吸引・口腔ケア・体位変換・コミュニケーション・経管栄養等 2)複数受け持ち演習 3)(輸液) 4. 看護技術評価 5. 緊急時対応 1)救急蘇生 2)チーム医療						担当者(時間)
							専任教員
							教員の連携と協力体制
評価	技術試験 筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門1 基礎看護学1 看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 専門2 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系統看護学講座 専門3 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)						
参考図書	看護技術がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 看護技術がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 (医学書院)						
オフィスア							
備考							

授業科目	統合実習 I (臨床実践技術)	単位	1	時間	45	履修時期	H31年度 3年次 1学期
設定理由	専門分野の各看護学で、得てきた知識・技術等をいかし、臨床での看護の実務に即した実習を行うことにより、看護師の役割・責任のイメージが広がる。チームの中で、他職種との連携、看護チームの一員として技術や知識を患者の健康障害や生活者と統合し、その実践を学ぶ。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者に看護チームの一員として看護ケアの実践を報告し、日常生活援助、臨察の補助技術を提供する技術の到達を明確にする。</li> <li>患者の尊厳や権利を尊重社会資源の活用のためのチーム間の協働や連携の実験を体験する。</li> </ul>						
授業の概要							
授業内容 (講義ことの内容)	1. 受け持ち患者の実践を通し、診療の補助技術の実践 2. 受け持ち患者の医療安全・危機管理 3. 受け持ち患者の権利や尊厳の尊重と自己の倫理観						担当者(時間)
							専任教員
							教員の連携と協力体制
評価	実施及び実習記録にて評価						
テキスト	系統看護学講座 専門1 基礎看護学1 看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 専門2 基礎看護学2 基礎看護技術 I (医学書院) 系統看護学講座 専門3 基礎看護学3 基礎看護技術 II (医学書院)						
参考図書	看護技術がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 看護技術がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 (医学書院)						
オフィスア							
備考							

授業科目	統合実習Ⅱ(看護マネジメント)	単位	1	時間	45	履修時期	H31年度 3年次 2学期
設定理由	専門分野の各看護学や実習で、得てきた知識・技術等をふまえ、臨床での看護の実務に即した実習を行うことにより、看護師の役割・責任のイメージが広がる。また、優先順位の調整、患者の安全管理に必要とされるアセスメントの実際を学ぶ。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の対象に対する看護を実践する上での調整の必要性を理解する。</li> <li>・看護管理の実際とメンバーシップ・リーダーシップを理解する。</li> <li>・医療安全の必要性と実際を学ぶ。</li> </ul>						
授業の概要							
授業内容(講義ことの内容)	1. 病棟看護の管理 ・リーダーシップ・メンバーシップ ・チーム医療における連携と協働 2. 医療安全・危機管理 3. 看護実践上の優先順位の判断と行動調整 4. 夜間における患者の安全と看護						担当者(時間)
							専任教員
							教員の連携と協力体制
評価	実施及び実習記録にて評価						
テキスト	系統看護学講座 専門1 基礎看護学1 看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 専門2 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系統看護学講座 専門3 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 新体系 看護学全書 <別巻> 看護管理 看護研究 看護制度						
参考図書	看護技術がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 看護技術がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 (医学書院)						
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考							